

中一国【説明文を書こう！「ちょっと立ち止まって」】

月 日

年	
組	
番	
名前	

# にしわきパワーアップシート（国語）

(自分で選んだトリックアートを貼付)

★見えるもの

★どうすれば見える？

## 序論

自分ではAだと思っていたものが、人からBともいえると指摘され、なるほどそうもいえると教えられた経験は多いことだろう。

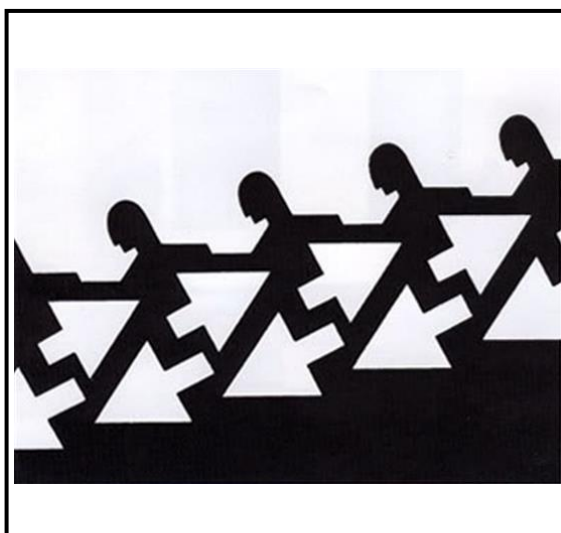
## 本論

## 結論

私たちは、ひと目見たときの印象に縛られ、一面のみをとらえて、その物の全てを知ったように思いがちである。物を見るときには、ちょっと立ち止まって、他の見方を試してみてもどうだろうか。中心に見るものを変えたり、見るときの距離を変えたりすれば、その物の他の面に気づき、新しい発見の驚きや喜びを味わうことができるだろう。

にしわきパワーアップシート（国語）

年	
組	
番	
名前	



★見えるもの

- ・ 矢印
- ・ 人の影絵

★どうすれば見える？

- ・ 矢印…白に注目
- ・ 人 …黒に注目

結論

私たちは、ひと目見たときの印象に縛られ、一面のみをとらえて、その物の全てを知ったように思いがちである。物を見るときには、ちょっと立ち止まって、他の見方を試してみよう。中心に見るものを変えたり、見るときの距離を変えたりすれば、その物の他の面に気づき、新しい発見の驚きや喜びを味わうことができるだろう。

本論

自分ではAだと思っていたものが、人からBともいえると指摘され、なるほどそうもいえると教えられた経験は多いことだろう。

上の図を見てみよう。よく見ると、この図から二種類の絵を見てとることができるはずだ。白い部分を中心に見ると、左右に続く矢印がくっきりと浮かび上がる。このとき、黒い部分はバックにすぎない。今度は逆に、黒い部分に注目してみる。すると、左方向へ走っている人の影絵が見えてきて、白い部分はバックになってしまう。

序論

この図の場合、矢印を中心に見ているときは、見えているはずの人の影絵が見えなくなり、人の影絵を中心に見ると、一瞬のうちに、目から矢印が消え去ってしまう。

## にしわきパワーアップシート（国語）

年				
組				
番				
名前				

1 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

人はよく美しい言葉、正しい言葉について語る。しかし、私たちが用いる言葉のどれをとってみても、単独にそれだけで美しいと決まっている言葉、正しいと決まっている言葉はない。ある人があるとき発した言葉がどんなに美しかったとしても、別の人がそれを用いたとき同じように美しいとはかぎらない。それは、言葉というものの本質が、口先だけのもの、語彙だけのものではなくて、それを発している人間全体の世界をいやおうなしに背負ってしまうところにあるからである。人間全体が、ささやかな言葉の一つ一つに反映してしまうからである。

京都の嵯峨に住む染織家志村ふくみさんの仕事場で話していたおり、志村さんがなんとも美しい桜色に染まった糸で織った着物を見せてくれた。そのピンクは、淡いようでいて、しかも燃えるような強さを内に秘め、はなやかでしかも深く落ち着いている色だった。その美しさは目と心を吸い込むように感じられた。

「この色は何から取り出したんですか。」

「桜からです。」

と志村さんは答えた。素人の気安さで、私はすぐに桜の花びらを煮詰めて色を取り出したものだろうと思った。実際はこれは桜の皮から取り出した色なのだった。あの黒っぽいごつごつした桜の皮からこの美しいピンクの色がとれるのだという。志村さんは続けてこう教えてくれた。この桜色は、一年中どの季節でもとれるわけではない。桜の花が咲く直前のころ、山の桜の皮をもらってきて染めると、こんな、上気したような、えもいわれぬ色を取り出せるのだ、と。

私はその話を聞いて、体が一瞬揺らぐような不思議な感じに襲われた。春先、もうまもなく花となって咲き出でようとしている桜の木が、花びらだけでなく、木全体で懸命になって最上のピンクの色になろうとしている姿が、私の脳裏に揺らめいたからである。花びらのピンクは、幹のピンクであり、樹皮のピンクであり、樹液のピンクであった。桜は全身で春のピンクに色づいていて、花びらはいわばそれらのピンクが、ほんの尖端だけ姿を出したものにすぎなかった。



にしわきパワーアップシート（国語）

年				
組				
番				
名前				

1 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

人はよく美しい言葉、正しい言葉について語る。しかし、私たちが用いる言葉のどれをとってみても、単独にそれだけで美しいと決まっている言葉、正しいと決まっている言葉はない。ある人があるとき発した言葉がどんなに美しかったとしても、別の人がそれを用いたとき同じように美しいとはかぎらない。それは、言葉というものの本質が、口先だけのもの、語彙だけのものではなくて、それを発している人間全体の世界をいやおうなしに背負ってしまうところにあるからである。人間全体が、ささやかな言葉の一つ一つに反映してしまふからである。

京都の嵯峨に住む染織家志村ふくみさんの仕事場で話していたおり、志村さんがなんとも美しい桜色に染まった糸で織った着物を見せてくれた。そのピンクは、淡いようでいて、しかも燃えるような強さを内に秘め、はなやかでしかも深く落ち着いている色だった。その美しさは目と心を吸い込むように感じられた。

「この色は何から取り出したんですか。」

「桜からです。」

と志村さんは答えた。素人の気安さで、私はすぐに桜の花びらを煮詰めて色を取り出したものだろうと思った。実際はこれは桜の皮から取り出した色なのだった。あの黒っぽいごつごつした桜の皮からこの美しいピンクの色がとれるのだという。志村さんは続けてこう教えてくれた。この桜色は、一年中どの季節でもとれるわけではない。桜の花が咲く直前のころ、山の桜の皮をもらってきて染めると、こんな、上気したような、えもいわれぬ色を取り出せるのだ、と。

私はその話を聞いて、体が一瞬揺らぐような不思議な感じに襲われた。春先、もうまもなく花となって咲き出でようとしている桜の木が、花びらだけでなく、木全体で懸命になって最上のピンクの色になろうとしている姿が、私の脳裏に揺らめいたからである。花びらのピンクは、幹のピンクであり、樹皮のピンクであり、樹液のピンクであった。桜は全身で春のピンクに色づいていて、花びらはいわばそれらのピンクが、ほんの尖端だけ姿を出したものにすぎなかった。

考えてみればこれはまさにそのとおりで、木全体の一刻も休むことない活動の精髓が、春という時節に桜の花びらという一つの現象になるにすぎないのだった。しかしわれわれの限られた視野の中では、桜の花びらに現れ出たピンクしか見えな  
い。たまたま志村さんのような人がそれを樹木全身の色として見せてくれると、はっと驚く。

(1) 「く美しいとは限らない」のはなぜですか。

〈出典〉「言葉の力」大岡 信（『国語2』光村図書より）

言葉というものは、

それを発している人間全体の世界を背負ってしまう

から。

(2) 「この色はく」とありますが、筆者はどのように取り出したと考えていましたか。

桜の花びらを煮詰めて色を取り出した。

(3) 実際にはいつ、何から取り出した色ですか。

桜の花が咲く直前のころ、桜の皮から取り出した色。

(4) 空欄に当てはまる言葉を、第二場面から抜き出しなさい。

ささやかな言葉のひとつひとつ	↓	(	桜の花びら	)
人間全体の世界	↓	(	木全体の一刻も休むことのない活動の精髓	)

(5) 筆者が「はっと驚く」のは、どのようなことに気付いたからですか。「現象」「背後」の二語を使って二十字以内で書きなさい。

現
象
の
背
後
に
あ
る
目
に
見
え
な
い
も
の
の
働
き
。

にしわきパワーアップシート（国語）

年	
組	
番	
名前	

1 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

もう一つ、「バイオリング」を用いて明らかになったペンギンの興味深い行動がある。エンペラーペンギンと同様に、アデリーペンギンもまた、餌捕り潜水をするために、氷の途切れた所まで歩いていく。ところが、しばらく歩き、目的地に到着したペンギンたちは、すぐには潜り始めない。数十羽が五メートルほど離れた所から水面を見つめて、じっと立っている。やがて一羽が「ガー」と鳴くと、周りのペンギンたちも「ガー、ガー」と答える。それがいつしか「ガーガーガー」という大合唱になり、一斉に水中に飛び込んでいった。そして、二分ほど経過すると、いっしょに水中から氷の上に飛び上がってきた（写真B）。ペンギンたちは、水中でもいっしょに餌を捕っているのだろうか。

私たちは、群れの中の三羽に深度記録計を取り付けて調べてみた。図3がその結果である。三羽が異なる深さで餌を捕っていることがわかる。同じような深さで餌捕りをするれば、餌を巡って競争は激しくなる。それを避けて、別々に行動しているのだ。つまり、彼らは、潜水の開始と終了だけをわざわざ一致させていることになる。なぜ、このような行動をとるのだろうか。

何日も観察していると、その理由が見えてきた。あるとき、ペンギンたちがてんでんばらばらに、ものすごい勢いで氷の上に飛び出してきた。その直後に、ウェッデルアザラシが水面に顔を出した。ウェッデルアザラシは、普段は深い所で小魚を捕まえているが、氷が多い場所では水面に浮かぶ氷の陰に隠れて、飛び込んでくるアデリーペンギンを狙っている。潜水開始と終了を一致させるペンギンたちの行動は、イワシ

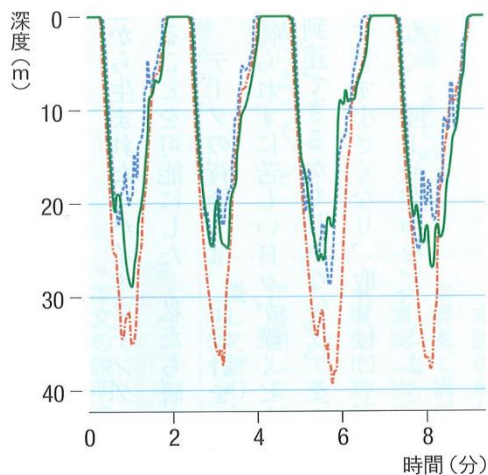


図3 いっしょに潜水を繰り返すアデリーペンギン3羽の潜水行動（各個体を色別で示す。）



写真B アデリーペンギンが水中に飛び込む様子(上)と水中から飛び出す様子(下)

などの小魚が、群れになって捕食者の目をくらませると同じように、捕食者から身を守るための行動であるようだ。野生のペンギンにとっては、餌を効率よく捕ることも重要だが、捕食者に食べられないこともまた重要なのだ。

〈出典〉「生物が記録する科学―バイオロギングの可能性」佐藤克文（「国語2」光村図書より）

(1) 写真Bからどんなことがわかりますか。

こと。

(2) 図3からどんなことがわかりますか。

三羽が

こと。

(3) 写真B、図3は何を説明するために使われていますか。

を説明するため。

(4) アデリーペンギンが(1)のような行動をするのはなぜですか。文章中から十一字で書き抜きなさい。




にしわきパワーアップシート（国語）

年	
組	
番	
名前	

1 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

もう一つ、「バイオリング」を用いて明らかになったペンギンの興味深い行動がある。エンペラーペンギンと同様に、アデリーペンギンもまた、餌捕り潜水をするために、氷の途切れた所まで歩いていく。ところが、しばらく歩き、目的地に到着したペンギンたちは、すぐには潜り始めない。数十羽が五メートルほど離れた所から水面を見つめて、じっと立っている。やがて一羽が「ガー」と鳴くと、周りのペンギンたちも「ガー、ガー」と答える。それがいつしか「ガーガーガー」という大合唱になり、一斉に水中に飛び込んでいった。そして、二分ほど経過すると、いっしょに水中から氷の上に飛び上がってきた（写真B）。ペンギンたちは、水中でもいっしょに餌を捕っているのだろうか。

私たちは、群れの中の三羽に深度記録計を取り付けて調べてみた。図3がその結果である。三羽が異なる深さで餌を捕っていることがわかる。同じような深さで餌捕りをするれば、餌を巡って競争は激しくなる。それを避けて、別々に行動しているのだ。つまり、彼らは、潜水の開始と終了だけをわざわざ一致させていることになる。なぜ、このような行動をとるのだろうか。

何日も観察していると、その理由が見えてきた。あるとき、ペンギンたちがてんでんばらばらに、ものすごい勢いで氷の上に飛び出してきた。その直後に、ウェッデルアザラシが水面に顔を出した。ウェッデルアザラシは、普段は深い所で小魚を捕まえているが、氷が多い場所では水面に浮かぶ氷の陰に隠れて、飛び込んでくるアデリーペンギンを狙っている。潜水開始と終了を一致させるペンギンたちの行動は、イワシ

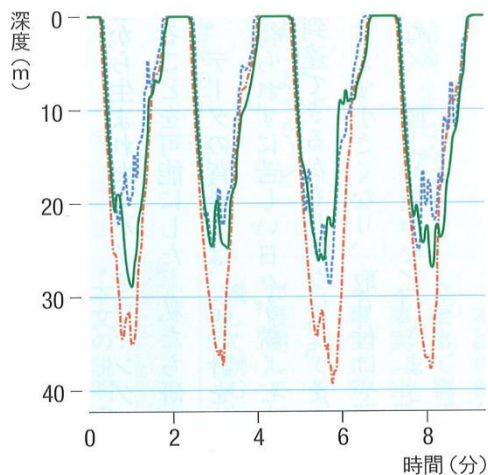


図3 いっしょに潜水を繰り返すアデリーペンギン3羽の潜水行動（各個体を色別で示す。）



写真B アデリーペンギンが水中に飛び込む様子(上)と水中から飛び出す様子(下)

などの小魚が、群れになって捕食者の目をくらませると同じように、捕食者から身を守るための行動であるようだ。野生のペンギンにとっては、餌を効率よく捕ることも重要だが、捕食者に食べられないこともまた重要なのだ。

〈出典〉「生物が記録する科学―バイオロギングの可能性」佐藤克文（「国語2」光村図書より）

(1) 写真Bからどんなことがわかりますか。

アデリーペンギンたちは(潜水のとき)一斉に飛び込み、いっしょに飛び上がってくる こと。

(2) 図3からどんなことがわかりますか。

三羽が 異なる深さで餌を捕っている こと。

(3) 写真B、図3は何を説明するために使われていますか。

アデリーペンギンが潜水の開始と終了だけをわざわざ一致させていること を説明するため。

(4) アデリーペンギンが(1)のような行動をするのはなぜですか。文章中から十一字で書き抜きなさい。

捕	食	者	か	ら	身	を	守	る	た	め
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

\* (1)～(3) は同意可